

## mcAccess e の一斉通信を利用して、 効率的・経済的に道路情報を共有。 安全・安心なバス運行に役立っています。

mcAccess e は、道路情報などの連絡に非常に便利。  
県警にもリアルタイムに情報提供しており、社会貢献につながっています。



●mcAccess e は運転中も通信できるので、急用もすぐ連絡が取れて便利。

### インタビュー

「一斉通信のおかげで、1回の連絡で済み、  
大変便利になりました」

九州産業交通株式会社の高速バスは、熊本と九州の主要都市間をはじめ、近畿・中京地区の都市間に16路線を運行しています。特に熊本～福岡便の「ひのくに号」は10分間隔で、1日になんと100便運行。それら全てのバスの運行管理をしているのが、同社の中央営業所です。夜行バスも運行しているため5交代勤務の24時間体制で、乗客の皆様を目的地まで安全に運べるように見守っています。



●九州産業交通の広告塔。



●4色の流線形のデザインが美しい、ハイデッカーで有名な高速バス。

同社では、以前は、営業所とバス間の連絡に携帯電話を使用していましたが、無線使用中の同業他社の方から、無線の有効性と通信経費削減の話聞き、mcAccess e を導入しました。導入後の一番のメリットは、一斉通信で情報が共有できること。従来、台風や雪などの異常気象で、高速道路や一般道路が通行止めになったときなど、携帯電話の場合は1台ずつ全車両に連絡する必要があり、手間と料金がかかっていましたが、mcAccess e の一斉通信だと、1回の連絡で済み、

**大変便利です。** 運行中の高速バスから営業所へ「〇〇自動車道下り車線が事故で渋滞しています」などと連絡が入ったときも、状況を確認し、他の運行中の高速バスに一斉通信で連絡。安全かつ、安心していただけるバス運行に役立っています。

また、乗務員から営業所へ「道路上に落下物発見」の連絡があると、すぐに警察の高速隊や道路公団へも連絡。落下物を放置しておくとな大事故を招く可能性もあります。もちろん警察や道路公団もパトロールしていますが、高速バスの運行頻度に比べると少ないので、リアルタイムな情報提供は関係機関から大変重宝がられています。

mcAccess e が道路交通法の規制対象でなく、運転中も通信できることもメリットのひとつ。もちろん、通話中も安全運転を心がけ、お客様の迷惑にならないように必要最小限の連絡にとどめています。



●一斉通信を利用して、営業所から全車両へ道路情報などを連絡。

### Point

- 一斉通信で、手間と時間、通信費を削減  
一斉通信で、手間と時間、通信費の大幅削減が可能。  
通信内容や目的によって、グループ通信、個別通信との使い分けもでき、機能的。
- 道交法に対応し、運転中も通信OK  
携帯電話の場合、運転中の使用は違法ですが、mcAccess e は規制の対象外です。
- 定額制で、経済的な利用料  
利用料は月々一定の定額制。通信時間に応じて料金が加算される携帯電話と比べ、経済的です。